

市民のページ

お届けします 「八重の桜」通信



2013年の大河ドラマで、会津藩士の娘・新島八重を主人公にした「八重の桜」が放送されることになりました。ここでは、新島八重に関する歴史やドラマに関連することなどを紹介していきます。

その7

京都への旅立ち

戊辰戦争後、八重らは

1870年10月に米沢に行ったことが新たに発見された史料で判明しました。また、1871年の出稼戸籍にも、山本家の家族の名前と年齢が記されており「米沢城下・内藤新一郎方出稼」とあります。八重も名前は記されてはいないものの「川崎尚之助妻27歳」とあり、本人に間違いはありません。そして、その年の10月に、八重と母の佐久、覚馬の娘みねの3人は覚馬のいる京都へ行きます。この時、覚馬の妻うらは京都

には行かず、離婚することになりました。

一方、兄の覚馬は戊辰戦争・鳥羽伏見戦のころには盲目となっており、1868年1月9日、京都で薩摩藩に囚われの身となっていました。八重らには殺されたという報がもたらされていました。

覚馬の名は、洋学者として当時京都でも広く知られており、牢内で毎晩酒が出されるほど、極めて丁寧な待遇を受けました。ここで覚馬は「管見」という、今後の日本の政治、経



山本佐久(同志社大学提供)

八重と覚馬の娘みねとともに京都へ行くことを決断した母、佐久。気丈で賢明な人柄であったと言われています。京都では、同志社女子学校が開設されたとき、五年間も寮の舎監を務め、教育に尽くしました

済、産業、教育など全般に渡る意見書を筆記させます。西郷隆盛らはこれを一読すると、すっかり敬服し、翌1869年には釈放されて、京都府の顧問格に就任していました。

八重が京都に向かうまでの間、覚馬との間でのような連絡があったのかは分かっていません。覚馬が自由になってから、かなり時間が経過していたにも関わらず、なぜ八重たちの京都市行きが遅くなったのかも謎として残ります。八重が京都に到着して半年後の1872年4月に、八重は新設された「新英学校及女紅場」の舎監兼教師になります。女紅場とは日本最初の女学校で、裁縫、機織り、押絵など実業学校のなものでした。後に府立第一女学校となります。そして、1875年に八重は、アメリカから帰国した後、夫となる新島襄と初めて出会うこととなります。

▼監修：会津歴史考房 主宰・野口 信一さん